式　　辞

暖かな、早春の日差しを受けて、校庭の桜が開花し、こぶしの花が咲き誇り、確かな春の訪れを感じる季節となりました。ご列席いただきました保護者の皆様方のお喜びと感慨は、ひとしおのことと存じます。

三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。この卒業式は、令和時代初めての記念すべき卒業式です。平成から令和と九年間の義務教育を修了し、今渡した卒業証書には中学校の教育課程を修了したことが証明されています。

卒業生の皆さんとは２年間の付き合いでした。その２年の間に毎朝、皆さんと挨拶を交わしながら、顔を合わせてきました。もう卒業だと思うと皆さんが見せてくれた笑顔や挨拶、日によって変わる表情や短い会話が蘇ってきて寂しさを感じます。

話しは変わりますが、皆さんの中学校生活には常に「最後の」、「初の」、「今年から」など、学校生活の中での節目や記念となる出来事が多くありました。

２年生だった平成三十一年二月の自然教室では４５年間にわたり、数えきれないほどの思い出づくりと共に千葉市の中学生を成長させてくれた高原千葉村の閉村式を執り行うという役割を担いました。退村式で合唱してくれたいきものがかりの「ＹＥＬＬ」の合唱は忘れられません。

令和時代になって直ぐに行われた、５月の京都・奈良の修学旅行。新幹線を使った令和元年度、関東の中学校で関西方面への修学旅行第一陣として東京駅のホームで東京駅長さんを迎え行われた出発式に参加しました。集合場所も、稲毛海岸駅集合だったのが、今年初めて東京駅となりました。自然教室が終了して２カ月という、短期間の準備期間で立派な修学旅行を行うことが出来たことにさすが三年生と感心しました。

さらに、今年度は、学校行事が大きく変化した年でもありました。

多くの保護者・地域の皆様方に応援に来ていただいた体育祭は、稲浜中学校の柱として立派に成長した三年生の皆さんの姿を伝えられた瞬間でもありました。また、合唱コンクールは、課題曲と自由曲の２曲での審査となり、学年ごとに優秀賞を設ける形になりました。最優秀賞は、

３年Ａ組が受賞しました。

このように多くの変化や出来事にもしっかりと対応し、最高学年としての務めを終え、今、皆さんは自分の進路に向かって稲浜中学校を巣立って行こうとしています。その皆さんに覚えていてほしい言葉を二つ伝えたいと思います。

一つ目は「おかげ」という言葉です。これは修学旅行で聴いた薬師寺の説法でお坊さんが教えてくれた言葉です。皆さんは、中学校生活３年間に、多くの出来事や災害に遭遇しました。そして、どんな時にも真正面から乗り越えていった姿を見てきました。本当に成長しましたね。しかし、どんな時にも常に自分を支えてくれた人がいた事も確かです。わたしも稲浜中学校の生徒の皆さんがいたから乗り越えられたことが多くありました。皆さんの「おかげ」です。この「おかげ」という感謝の言葉を忘れないでください。

二つ目は、東京オリンピック・パラリンピック２０２０のエンブレムが象徴しているように「共生」という言葉です。これからの社会は、共生社会をつくるために障害がある、ないにかかわらず、女の人も男の人も、お年寄りも若い人も、全ての人がお互いの人権や尊厳を大切にし、支え合い、誰もが生き生きとした人生を送ることができる社会を実現しなければなりません。このことはＡＩによるマニュアルでは実現できません。人間の人を思いやる「心」があって初めて「共生社会」が実現するのです。私達が生きていくこれからの時代、「令和」には、「人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つ」という願いが込められています。

２年後の２０２２年４月より成人年齢が引き下げられ１８歳が成人となります。卒業生のみなさんは高校に進学して間もなく社会参画し、大人として良い日本を作っていく使命を帯びます。そのことを考えると決めた進路先でこれからどのように生きていくかが重大なことになります。自分の未来を切り開いていくのは自分にしかできません。過去は変えられませんが、未来は変えられます。新しい自分にもなることが出来ます。

終わりになりましたが、保護者の皆様にはこころより祝いを申し上げます。また、これまでの三年間、絶えず本校の教育へご理解とご支援を寄せていただきましたことに深く感謝申し上げます。稲浜中学校での３年間が卒業する生徒達のこれからの人生の礎（いしずえ）となることが

出来たならば幸いです。

本来ならば、千葉市教育委員会、ご来賓の方々、そして、学校生活において、稲浜中学校の伝統を卒業生の皆さんから引き継いでいく後輩たちが式に参列し、卒業の門出を祝うはずでした。しかし、新型コロナウイルス感染拡大防止のため式の出席者を制限し、式次第を削って短時間で実施することになり、卒業生の皆さん、保護者の皆さんには大変申し訳ない気持ちでいっぱいです。私達職員一同も大変残念です。しかし、負けてはいけられません。私達は日本人としての誇りを持ち、この難局を乗り越え、明日に向かって進まなければなりません。卒業生の皆さんの活躍を期待すると共に稲浜中学校を発展させていくため、更に尽力することを誓い式辞といたします。

令和二年三月十二日

千葉市立稲浜中学校長　川崎　康範